

名稱

之ヲ再興シタリキ

〔名目抄恒例諸公事〕内宴イニ

〔年中行事歌合〕九番 右 内宴

宗時朝臣

千早破神の泉のそのかみや花を見ゆきのはじめなりけむ

判者申云、○中右内宴と申は、内々の節會也、仁壽殿にて行る、也、○中内宴に限らず、神泉ばかりにては、題の心不足にや、此事保元に信西申行し後、絶て侍るにこそ、文道のためも念なく侍

れ、

〔舊五代史唐書四十七〕蕭希甫、宋州人也、○中莊宗將建國置百官、李紹宏薦爲魏州推官、同光初、有

詔定内宴儀、問希甫、樞密使得座否、希甫以爲不可、樞密使張居翰聞之、怒謂希甫曰、老夫歷事三朝、

天子見内宴數百、子本田舍兒、安知宮禁事、希甫不能對、

〔公事根源正月〕内宴

二十一日

内宴と申は、うちくくの節會なり、仁壽殿にておこなはる、文人ども題を給り、詩を作て、やがて御

前にて講せらる、二十一日、二十二日、二十三日の程、子の日にあたれば、其日おこなはれて、一二獻

の後、親王公卿に、若菜のあつものを給ふ、保元に信西申行侍し後は、絶て侍にこそ、

〔西宮記臨時十〕内宴事

此日、時及晚景、則近衛將等帶弓箭、遞候、出居之座、

同日、若有臨時叙位之時、次將一人取位記、加進立文臺下、跪而置弓、立而召給之、又臨時之宴、之次、忽

然無其位記者、以白紙召唱給之云々、但叙人雖稱唯不賜白紙、歟、叙親王者、中將可讀之、

同日、王卿列立、謝座了、次將執空盞、出自北方、渡舞臺西頭、仁壽殿授之、貫首人謝酒訖、返執空盞等之

儀、皆如酒正也、

式日  
臨時